

## 令和7年度第2回神奈川県観光審議会議事録

日 時：令和8年3月26日（木） 13時から14時30分まで

開催場所：万国橋会議センター 401号室

出席者：古賀学【会長】、大森道明【副会長】、佐藤守【副会長】、赤司真紀（吉越大悟委員代理）、大場好浩（柴田和義委員代理）、岡崎三奈、松山弘子、眞野大輔、室伏ゆかり、安本達式、楓千里、工藤亜稀、尹貴淑、内田みほこ、小野寺慎一郎、杉本透、藤田一弥 ※敬称略

### 1 開会

- 開会あいさつ（文化スポーツ観光局長）
- 事務局が委員数20名に対し、2分の1を超える17名の出席を確認し、審議会が成立すること、傍聴希望者がいないことを報告。

### 2 議題

神奈川県観光振興計画改定骨子案について

（【資料1】「神奈川県観光振興計画改定骨子案について」に基づき、事務局から説明）

#### ○ 古賀会長

審議を行います。「振り返り」「目指すべき姿」「骨子案」の3点について、ご意見をいただければと思います。

#### ○ 楓委員

まず、第5期計画の振り返りですが、資料1、4ページの図で、「経済波及効果の拡大」の部分では、6ページにて効果の記載はあるが、「観光客・住民の満足の高まり」の部分で、10ページにあるように住民の不満が残っているという見せ方だけではなく、オーバーツーリズムもあったが地域住民と観光客の良い交流が生まれたなど、ポジティブな側面も併せて発表していくと良いと思います。

次に、骨子の目指すところですが、24ページの国の計画にある「戦略産業」「戦略的な誘客」という言葉を参考に、一步踏み込んで具体的に推進する意思を示すべきです。

また、骨子と少しずれますが、「質の向上」や「分散」の具体的なイメージや、高付加価値化として何をするのかを次のステップで明らかにすると良いです。

新たな観光資源、そこにお客様が来てくださるということは非常に重要な取組のため、もう少し強調してもらいたいです。産業観光や、農業観光など、新たな観光資源の発掘に力を入れていただきたいです。

## ○ 内田委員

これほど外国人の方がお見えになるということは、トイレの改修や多言語化など、実用的なものをさらに整備していく必要があります。

また、国との連携をしながら、国際観光旅客税などを国にアピールして県に落とすただけことが大事です。受入態勢についても、観光客や高齢者の増加を見据えた視点でも入れるべきです。ここでしっかりやっておけば、次期計画期間の令和9年からの4年間を無駄にしないチャンスだと思います。

人材育成については、コーディネートのような、指示やアイデアを実現化でき、人材を磨き上げることができる方、そういった視点で人材育成をしてほしいです。交通アクセスについても、電鉄会社等と連携して便利な神奈川を目指していただきたい。これらを骨子の中にしっかりと位置づけていただきたい。受入整備をしっかりやるべき時だと思います。

## ○ 安本委員

資料1の4、5ページの経済波及効果の拡大について、実際には観光消費額と住民満足度で経済波及効果を捉えるという認識でよいでしょうか。DMOのガイドラインも改定され、経済波及効果の算出し、KPI、KGIとすることが必須になっています。

## ○ 事務局

経済波及効果については、来年度に今回の計画の令和5年度から7年度分を、また令和8年度につきましても、経済波及効果を推計していく予定です。

## ○ 安本委員

20ページの施策の方向性の中で、データ活用を推進することについて、われわれの日本観光振興協会でもデータ環境の整備をしても、それを使う人がいないということもありますので、データ分析の人材育成も重要だと思います。

## ○ 松山委員

私どもパシフィコ横浜はMICE事業を展開しております。2024年の実績をもって経済効果を当社なりに調査したところ、コロナやインバウンドの需要を踏まえ、国内から来られる方は、日帰り、短期間滞在が以前と比べて増えているという傾向が調査に出ています。

逆に、海外から来られる方は、むしろ平均宿泊日数が増加しているという結果が出ています。海外の方の来場者数の平均宿泊者日数が7.7日から8.5日になりました。MICE、学会で来ている方はすぐ帰るのではなく、「ついでに日本を見ていこう」という意欲も高いと思われますので、そのような方々に魅力的なプログラムや提案で、神奈川の魅力

を味わってもらえるような積極的なインバウンドの戦略的な誘客を打ち出していただきたいです。

また、内田委員がおっしゃったトイレの改修など、海外の方々向けの整備も積極的に進めていただきたいと思います。

#### ○ 小野寺委員

参考資料2、第5期観光振興計画の17ページにある観光の弱みとして「グルメに対する期待値が低い」と記載されています。観光客の数ではなくて、どれだけお金を落としてもらえるかというコンテンツをしっかりと揃えることが大事だと思います。神奈川はガストロノミーのポテンシャルが非常に高いのに、グルメに対する期待値が低いことは非常に残念です。製品の魅力をとおして地域をブランド化していく、ガストロノミーツーリズムというポテンシャルを活かしていくことが大事です。今後の神奈川の観光課題といったときにグルメに対しての期待値が低いというのは、とても残念ですので発言させていただきました。

#### ○ 吉越委員代理

私どもJNTOは、インバウンド誘客に取り組んでいる団体ですので、その観点から発言します。先ほどお話にも出ていたインバウンドについて戦略的な誘客をすると記載するのであれば、どの市場を狙っていくのか、家族や若者、高齢者を狙うなどを具体的に深掘りした方が良いのではないかと思います。それぞれの市場に合わせたプロモーションを行うことで、より効果的な誘客が可能になると思います。どの層を狙うのかを分析の上、記載すべきだと思います。

また、高付加価値化、富裕層を狙っていくことについても、具体的に何を富裕層に打ち出すのか、戦略的に取り組むのが良いかと思います。

#### ○ 楓委員

先ほど、経済波及効果の話があり、来年度は参考指標とするとのことですが、実はこの経済波及効果は住民の方の理解を得る一つのツールとして、分かっただきやすい指標です。そのため、参考指標という位置づけが良いのかどうか。住民満足度も含めてですが、メインの指標にするということも検討するといいいのではないかと思います。

#### ○ 古賀会長

先ほど意見でもありましたが、経済イコール満足ではないです。満足度の指標は多様のため、改めて考えていく必要があると思います。

○ 岡崎委員

4ページの満足度の高まりがどうだったかの検証は、住民満足度調査ぐらいしかないですが、満足度を構成するものとして第5期観光振興計画では自然環境、生活環境の保全、住民理解、賑わいや交流とあり、このような検証はどうするのでしょうか。

○ 事務局

住民満足度調査の中で、住民の方に伺っていくやり方となります。来年度の調査の中でも要素を盛り込んでいく予定です。今後お示しできるようにします。

○ 古賀委員

今後の調査の中でもそのような視点を盛り込んでもらいたいです。今回の議論は骨子案について諮るものであり、さきほど話のあったインフラをどこに盛り込むか悩ましい部分ではあります。

○ 工藤委員

5, 6ページの外国人の消費単価について令和元年と令和6年の比較で気を付けないといけないのが、為替（円安）の影響です。令和元年から令和6年にかけて円安は45%程度進んだので、外国の方が支払った額はあまり変わらないという実態があります。神奈川県では伸び率が8%ということなので、この部分を認識しておいたほうが良いです。

また、日帰り客が9割であることを課題としてあげていますが、一方、延べ宿泊者数は目標に対し日本人も外国人も達成しているので、今後、目標を決めていく際には、宿泊費は旅行全体の中で大きな割合を占めるということを確認し、宿泊者数は達成しているが単価は達成できないというようなことが起きないように、費目別での影響も考慮したほうが良いです。

宿泊費に関連し、日本人も外国人も平均して1泊ほどしかしていないということですが、外国人に宿泊してもらおうとなると、日本人向け宿泊施設とはまた視点が異なります。外国人であれば、より宿泊費に対して支払い意欲が高いということもあり、より豪華なものなど高付加価値な施設が増えていくことが今後期待すべきところです。

また、24ページにある国の計画では、「働いてよし」が新たに増えたところですが、宿泊産業の従業員の賃金についても意識してみてはどうかと思います。それに関連して高付加価値な、高単価の施設が増えていくべきなのではと思います。

○ 岡崎委員

17ページの骨子案にある、「5施策体系」の「(2)観光客の受入環境整備」についてですが、受入環境整備は概念として広いので、どこまでやるのかの確認が必要と思います。原案の施策体系では、資源の磨き上げも人材育成も、関連産業も「受入環境」に含まれて

いますがここまで大括りにしてよいのかどうかと思います。特に、人材育成はそれだけでも重要な領域です。観光地としての環境や受入れ状況が整っているのかを問うひとつの指標であり観光業に従事してくださる方の意欲や満足度がないと、観光地としては持続していきません。やはり、現行計画同様、分けた方が良いのではないかと思います。

#### ○ 杉本委員

観光により地域が輝く神奈川とありますが、神奈川全体の底上げ、そのような取組をしなくてはと思います。神奈川県はエリアで相当特色があり、それに合った取組を考えていなくてはと思います。神奈川の観光の底上げをしていくとすれば、きめ細かに対応していく体制を作る必要があると思います。

箱根と湯河原を比べると、湯河原は温泉地として非常にいいところですが、しかし、現実には圧倒的に箱根です。県として一括りとした時に、もう少しきめ細かな対応をしていなくてはならないと思います。今、神奈川県は、三浦、大山、大磯を次の観光地として目指していますが。しかし、1回は訪れますが、リピーターがいないのです。このようなことも含めて、ぜひご検討いただければと思います。

#### ○ 室伏委員

湯河原で今問題になっているのが、人手不足です。湯河原で観光に皆様に働いていただきたくても、寮が足りないため働き手が集まらず、人手不足ということもあるので、満室にできるのに働き手がないことで、お客様の受入れを我慢しなければならなくなっています。そのため、観光でお客さんを集めるための検討の中に、この人手不足を特に感じています。仕事柄、帰りが遅くいため働きたくても通うのは難しく、移住してもらうなど、考えていかないといけない。そうしないと、宿泊産業が人手不足を解消するのは難しいと考えております。

#### ○ 大森委員

神奈川の観光は横浜、鎌倉、箱根がとても有名で、その次の観光地をどう育てていくのか。三浦、大山、大磯なども力を入れているところですが、みなさんの理解がないとなかなか思うように進まないです。

鎌倉市では、宿泊客が観光客全体の3.7%となっており、最近ようやく宿泊事業者から理解いただいて宿泊税を取ろうかという検討委員会をやっていますが、日帰りの97%のお客様にも税負担をしてもらわないと、インフラ整備を賄うのは厳しいです。継続してインバウンドも含めた神奈川県として育てていくのには、来られる方に相当分の負担をいただくことが必要です。

また、鎌倉高校前は注目をあびていますが、おかげさまでAIカメラを使って白タクや人の流れなど効率よく規制ができています。

○ 佐藤委員

K P Iについて話します。箱根DMOは先駆的DMOとして、しっかりとK P Iが求められており、大事なことはその指標をしっかりと継続できるのかということです。K P IをK G Iに向かって決めるということを実際にやり、成果を出していくべきなのですが、果たして本当にできるのかということです。

県観光協会はかながわDMOなので、国からの指定もあり、K P Iに沿って県の観光課と一緒にその指標を追うことになるかと思えます。その指標を決めても、目標までいかなかった場合に批判されてもつらくなるし、指標に届かなかった場合に、なぜ届かなかったのか、その先も指標として置き続けるのかを決めておかなければいけないと思えます。

また、市町村ごとに目指しているものの力点が違うため、何を神奈川県として共通で目指していくかを視点に入れておかないと、全部K P Iに立てつけてしまうと苦しくなるのではないかと思います。

○ 古賀会長

17 ページの骨子案についてご意見は、これからの話が多かったかと思いますが、まとめますと、まず、「5 施策体系」について、特に「(2) 観光客の受入環境整備」の部分にインフラなど入れる必要があるといった話がありましたが、(2)の中でさらに細分化して膨らませていくのか、あるいは新たに項目を増やしていくのか。

次に、「3 施策の方向性」が「4 計画における数値目標」に合致しているのか、繋がっているのか。そして、計画の数値目標が、「5 施策体系」の展開へ結びついているのかを明確にする必要があるということかと思われまます。

以上を踏まえ、まとめた意見について、会長である私と事務局とで相談して内容を詰めていくということで、ご了承いただけますでしょうか。

○ 委員一同

異議なし。

3 報告

神奈川・横浜デスティネーションキャンペーンについて

(【資料2】「神奈川・横浜デスティネーションキャンペーン プレスリリース」に基づき、事務局から説明)

○ 古賀会長

ただ今のご説明について、質問などありますでしょうか。

## ○ 室伏委員

湯河原のことですが、観光客の人たちに見ていただく、体験していただくことを狙っているんだと思います。例えば、湯かけ祭りの湯河原フェスですが、18時開始となっています。この時間帯ですと時間的に参加できない方が出てくるのが気になります。どういった方を対象に考えているのでしょうか。

## ○ 事務局

こちらの内容につきましては、湯河原市観光協会に確認して掲載しました。湯かけ祭りということで、インバウンドの方にもアピールができるような内容にしています。今年度、実施してみて、見直すべき事項がございましたら、またご意見いただければ幸いです。

## ○ 古賀会長

destinationキャンペーンは、地元が主体になって新たな魅力や旅行商品化などを実践していただくだけではなく、神奈川県各地の観光の魅力を引き出し、分散化を図るためには非常にいい機会だと思います。旅行会社の方もいらっしゃいますので、新たな魅力を生かした良い旅行商品を作っていただき、それを継続化させ新たな観光地形成を図っていくということが大事ですので、皆様のご協力よろしく願いいたします。

本日の議題・報告はすべて終了となります。審議にご協力いただきましてありがとうございました。